

JFIR 公開ウェビナー

「米中覇権競争時代の米国のエコノミック・ステイトクラフト」

へのご案内

この度、日本国際フォーラム（JFIR）は、12月2日（金）にミレヤ・ソリス（Mireya Solis）米国ブルッキングス研究所東アジア政策研究センター所長（略歴別添）を講師にお迎えし、「米中覇権競争時代の米国のエコノミック・ステイトクラフト」と題して講話を頂くこととなりました。



近年、経済的手段を用いて他国に影響力を行使し、自国の利益を追求しようとする「エコノミック・ステイトクラフト」への世界的注目が高まっています。同手法は米中の外交戦略でよくみられ、例えば米国は2019年に国防権限法を改正し、新興技術を多く扱う自動車産業に防衛産業と同等の技術情報管理を求めるなどして、ハイテク技術の中国流出を最小限に止めようとしています。一方中国は日本へのレアアース輸出禁止、豪州産ワインへの反ダンピング措置等の手段でエコノミック・ステイトクラフトを行使しています。

また米国は、価値観を共有する国々との多国間枠組みの構築をつうじて、中国によるエコノミック・ステイトクラフトの影響圏を狭めようとしています。今年9月に創設された「インド太平洋経済枠組み（IPEF）」では、バイデン政権の中国を排除してさらに囲い込む意図が明確に打ち出されています。

我が国でも他国からのエコノミック・ステイトクラフトの行使から日本経済を守るべく、今年5月に経済安全保障推進法が制定されました。米国と歩調を合わせ、中国のエコノミック・ステイトクラフトの行使に対抗するためにも、米国が今後同盟国を巻き込み、どのようなエコノミック・ステイトクラフトを行使しようとしているのか、しっかりと見極める必要があります。

そこで今回は、米国におけるアジア太平洋地域の経済・通商政策研究の第一人者であるミレヤ・ソリス米国ブルッキングス研究所東アジア政策研究センター所長をお迎えし、米中対立やウクライナ危機の下、米国がいかなるエコノミック・ステイトクラフトを展開しようとしているのか、ワシントンの生の情報をご提供いただきます。

当日は、ソリス所長に50分ほどお話を伺った後、当フォーラムの組織する「米中覇権競争とインド太平洋地経学」研究会（<https://www.jfir.or.jp/studygroup/sg6/>）の主査である寺田貴 JFIR 上席研究員・同志社大学教授より地経学的視点を踏まえたコメントを頂戴し、その後参加者との意見交換を行います。

司会・進行は同研究会顧問の河合正弘 JFIR 上席研究員・東京大学名誉教授が担当いたします。

記

1. 日時：2022年12月2日（金）15時から16時半まで（ZOOM 開室は14時55分から）
2. 開催形式：オンライン形式（ZOOM ウェビナー）
3. 参加費：無料
4. 使用言語：日本語と英語による同時通訳
5. プログラム
15:00～15:05 河合正弘 JFIR 上席研究員（司会）より挨拶
15:05～15:55 ミレヤ・ソリス所長より講話
15:55～16:05 寺田貴 JFIR 上席研究員よりコメント
16:05～16:30 視聴者を交えた質疑応答・協議
6. 申込方法：下記「申し込みフォーム」より、必要事項をご記入の上、12月1日（木）正午までにお申し込み下さい。お申込みいただいた皆様には、会合までにメールにて、Zoom 参加 URL、パスワード等の詳細を送信いたします。

参加ご希望の方はこちらからお申込みください

<本対話に関する連絡先>
日本国際フォーラム事務局（港区赤坂 2-17-12-1301 [TEL:03-3584-2190](tel:03-3584-2190))